

**地方公共団体等における
火山防災訓練の企画・運営ガイド
(付録：図上演習及び実働訓練の企画・運営の具体例)**

令和7年5月
内閣府（防災担当）

目次

浅間山

雌阿寒岳

付録①図上演習

付録②図上演習

付録③実働訓練

0.	浅間山・雌阿寒岳の概要	3	21	-
1.	基礎資料の整理	4	-	-
2.	課題の抽出、訓練目的・対象の設定	5	-	-
3-1.	事務局体制・訓練対象者、訓練項目の設定	6	22	37
3-2.	目的に応じた訓練形式の選択	7	23	38
3-3.	訓練想定（場面）の設定	8	24	39
4-1.	訓練骨子の整理	9	25	40
4-2.	有識者・専門家・関係機関への支援依頼	11	27	42
4-3.	訓練内容（形式）の具体化	12	28	43
4-4.	訓練想定（シナリオ、状況付与）の具体化	13	29	44
4-5.	訓練当日資料・備品の準備	14	30	45
4-6.	進行管理者・進行補助者向け資料の準備	15	31	-
4-7.	事前説明会の開催・住民への参加周知の実施	-	-	46
5.	訓練当日の流れ	16	32	47
	（参考）演習の流れ	17	33	-
6.	訓練の振り返り	18	34	48
	（参考）アンケート結果（一部抜粋）	19	35	49

付録①：浅間山における

図上演習の企画・運営の具体例

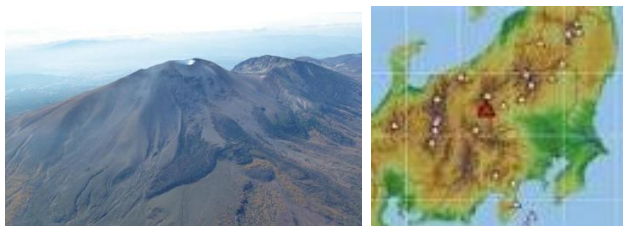
付録① 0. 浅間山の概要

本資料は、令和6年度に浅間山火山防災協議会が主催した火山防災訓練※を対象に、企画ガイドの流れに合わせて、企画や準備等の内容をまとめたものです。

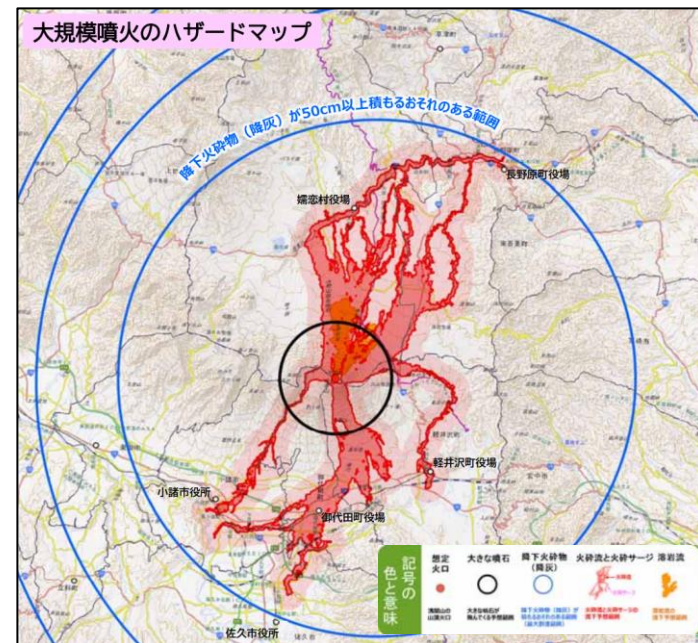
※内閣府のモデル事業として、浅間山火山防災協議会と共同で訓練の企画等を実施

■ 浅間山の概要

浅間山は、群馬県と長野県の2県にまたがって位置する火山である（最高点の標高は2,568m）。浅間山は複雑な形成史をもち黒斑山、仏岩山、前掛山そして現在活動中の釜山等複数の火山活動を繰り返して形成された。有史以降10回余りの大規模な噴火と中小規模の噴火を繰り返してきた。とりわけ天仁噴火（天仁元年、西暦1108年）と天明噴火（天明三年、西暦1783年）の噴火活動が顕著であった。有史以降の噴火活動は前掛山とその内側に位置する中央火口丘である釜山の山頂火口で発生している。噴火様式は爆発型（ブルカノ式）噴火が特徴であるほか、火砕流も発生しやすく、天仁・天明噴火では空高く噴煙を上げるプリニー式噴火の他、溶岩流も発生した。



出典：浅間山広域避難計画（令和6年3月）より抜粋（一部編集）
（写真・図）気象庁HP「浅間山」



出典：大規模噴火のハザードマップ（平成30年3月）（群馬県HP）

■ 浅間山火山防災協議会 コアグループ

- 県：群馬県（総務部危機管理課、県土整備部砂防課、吾妻行政県税事務所）、長野県（危機管理部危機管理防災課、建設部砂防課、長野県佐久地域振興局）
- 市町村：（群馬県）長野原町、嬬恋村、（長野県）小諸市、佐久市、軽井沢町、御代田町
- 気象台：東京管区気象台、前橋地方気象台、長野地方気象台、浅間山火山防災連絡事務所
- 内閣府政策統括官（防災担当）、国土交通省関東地方整備局（利根川水系砂防事務所、高崎河川国道事務所、長野国道事務所）
- 火山専門家：荒牧重雄（東京大学名誉教授）、武尾実（東京大学名誉教授）、大野宏之（（一社）全国治水砂防協会理事長）、高橋正樹（日本大学上席研究員）

出典：浅間山火山防災協議会設置要綱（令和5年12月27日最終改正）別表3

付録① 1. 基礎資料の整理

資料名		参照したい項目				
		① 火山 現象	② 防災 対応	③ 避難 対応	④ 災害 実績	⑤ その 他
1	各県・各市町村の地域防災計画（火山災害対策に関わる計画等）		◎	◎		
2	各参加機関の防災行動計画等（火山災害対策に関わる計画等）		◎			
3	浅間山避難計画（レベル1-3想定）（浅間山火山防災協議会、令和4年3月）	◎	◎	◎	◎	
4	浅間山広域避難計画（浅間山火山防災協議会、令和6年3月）	◎	◎	◎	◎	
5	避難促進施設が作成した避難確保計画（各自治体）		◎	◎		
6	ハザードマップ（大規模噴火のハザードマップ、小～中規模噴火のハザードマップ）	◎				
7	浅間山の噴火警戒レベルリーフレット（気象庁）	◎				
8	気象庁ホームページ掲載資料「火山活動の状況（浅間山）」 「日本活火山総覧（浅間山）」	◎			◎	
9	浅間山の過去の訓練実施報告、訓練想定等の資料		◎		◎	
10	過去の災害対応報告等				◎	
11	浅間山周辺自治体の人口推計					◎
12	他火山の火山防災訓練の事例（内閣府資料等）					◎

付録① 2. 課題の抽出、訓練目的・対象の設定



浅間山の噴火に備え、職員を対象に避難計画等の理解や災害イメージの形成等を図ることを目的とした。

課題・懸念点等の確認（訓練を実施するきっかけ）

- 2009年の噴火（約4ヶ月継続）から15年以上が経過し、当時の防災対応等を経験した職員が減少
- 噴火警戒レベル4以上の防災対応が未経験であることが課題

訓練目的・対象者の検討

- ① 防災対応が未経験の職員が、災害イメージを形成することができる
- ② 噴火警戒レベル4以上を想定した防災対応を確認・検証することができる

訓練目的・対象者の整理

職員を対象とした、防災対応の手順・内容を確認するための訓練

付録① 3-1.事務局体制・訓練対象者、訓練項目の設定



訓練への参加や企画の経験等も踏まえ、関係職員を対象とした、比較的少人数の訓練規模を設定した。

○事務局体制：防災担当職員

- 防災担当の職員を中心に企画等を実施、気象台・内閣府等にも協力を依頼

○訓練対象者：関係職員

- 浅間山噴火警戒レベル4・5発表時における各機関の対応を「浅間山広域避難計画」に沿って確認するため、関係職員を対象者として設定

○訓練会場：佐久合同庁舎講堂（対面）、及び各機関の執務室（オンライン）

- 対面会場は災害対策（長野県側）の拠点であり、演習スペースが確保できる場所として選定

○準備期間：約8ヶ月間（2024年6月～2025年1月）

○訓練時間：3時間程度

- 参加者が集中して演習等に取り組めるよう、講評・振り返りを含めて全体で3時間程度の時間を確保

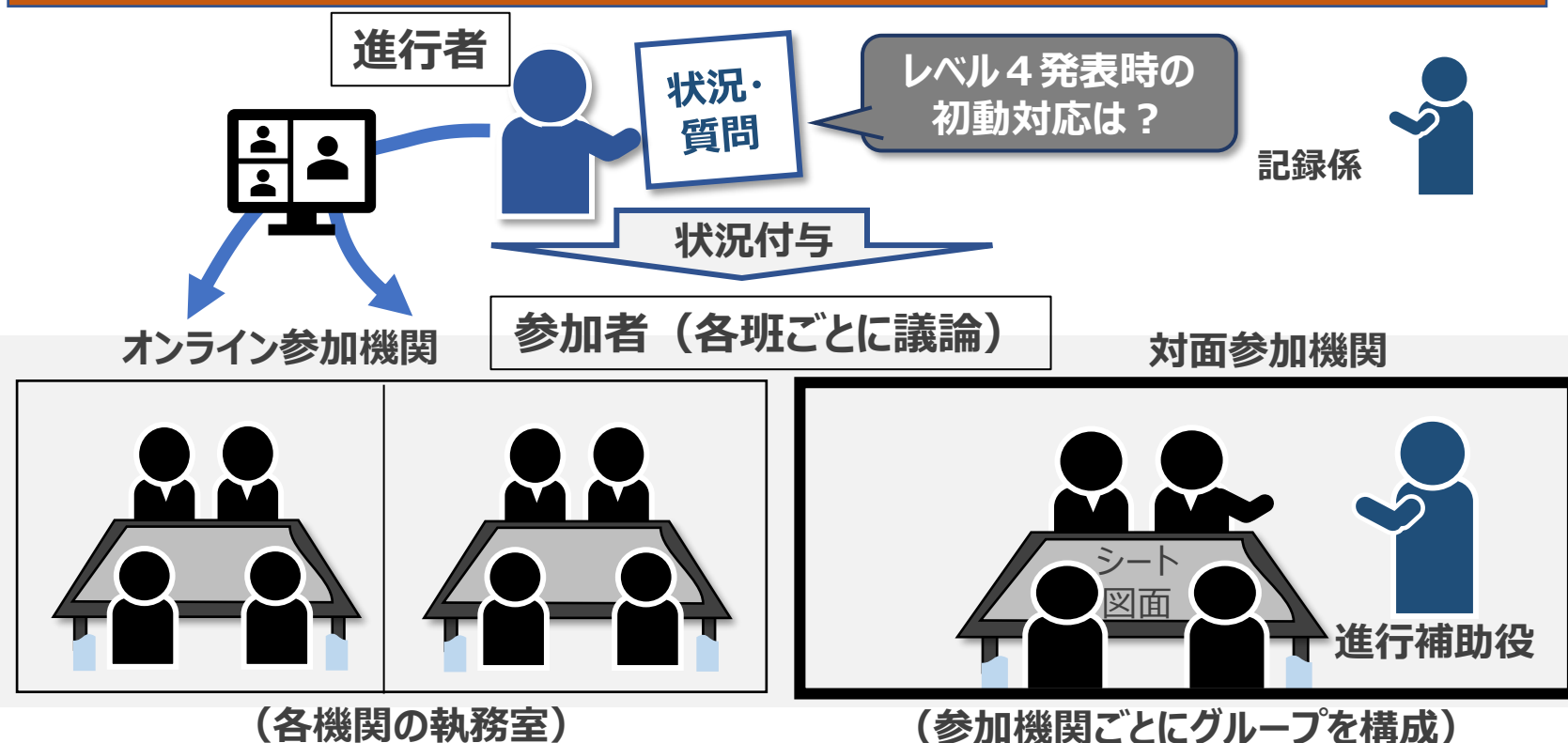
付録① 3-2.目的に応じた訓練形式の選択



場面に応じて付与される情報（状況付与）に応じて各班で議論をすることにより、防災対応に関する理解を深め、実際の対応を行う際の課題等を確認・共有する「図上演習」を行う訓練形式とした。

■ 実施イメージ

図上演習



付録① 3-3.訓練想定（場面）の設定



噴火警戒レベル3から噴火発生、噴火警戒レベル5に至る過程において、避難計画等に基づく対応等を確認できるように場面を設定した。

項目	想定の例
火山活動状況	・前提条件として、噴火警戒レベル3（噴火前）である状態から、火山活動がさらに活発化し、気象台からの事前連絡を経て、噴火警戒レベルが4（噴火前→噴火発生）、5（噴火後）へと段階的に上げられ、その後も活動が継続している状況を想定
気象	・特段の設定はなし
日程	・1月31日（レベル4へ引き上げ）、2月2日（レベル5へ引き上げ）（実際の訓練実施日とその数日後の2つの場面を設定）
時間	・午後（実際に訓練を実施する時間）
被害状況	・特段の設定はなし
時間進行	・噴火警戒レベル4や5への引き上げと、その時の対応（場面2つ）
その他	・対象地域の住民等の避難が必要になる状況として、大規模噴火が発生するおそれや、時期的に融雪型火山泥流発生の可能性を考慮 ・複雑な設定等は避け、演習の中で適宜想定を広げていくこととした

付録① 4-1.訓練骨子の整理 (1/2)

○ 訓練の目的・ねらい

- 協議会の関係職員を対象として、浅間山噴火警戒レベル4やレベル5発表時における各機関の対応を「浅間山広域避難計画」に沿って確認するとともに、各機関の対応項目を中心として当計画の検証を行う。

○ 訓練の実施日時・会場

- 令和7年1月31日(金)13時～15時45分 佐久合同庁舎講堂と各機関の執務室

○ 訓練参加機関

- 主 催 : 浅間山火山防災協議会（訓練事務局：長野県）
- 協力機関 : 気象庁、内閣府（防災担当）
- 当日参加機関 :
 - （1）会場参加（協議会第1、2号議員）
群馬県、長野県、小諸市、佐久市、軽井沢町、御代田町、長野原町、嬬恋村、前橋地方気象台、長野地方気象台、
 - （2）各執務室参加（協議会第3、4、5、6号議員）
国土交通省関東地方整備局、陸上自衛隊、群馬県警察本部、長野県警察本部、佐久広域連合消防本部、吾妻広域消防本部、高崎市等広域消防局

○ 訓練想定

- 噴火警戒レベルが3である状態から、火山活動がさらに活発化し、気象台からの事前の情報を経て、噴火警戒レベルが4、5へと段階的に引き上げられた。

付録① 4-1.訓練骨子の整理 (2/2)

○ 訓練実施方法

- 図上演習（対面参加、オンライン参加）

○ 場面想定

- 2つのフェーズ（場面）に区分
 - 訓練開始～フェーズ①：噴火警戒レベル3の状況からレベル4に引上げを想定
 - ➡ レベル3までの対応整理、レベル4引上げに向けた対応準備、レベル4引き上げ時の初動対応等について議論
 - フェーズ②：噴火警戒レベル4から中規模噴火を受けてレベル5に引上げを想定
 - ➡ レベル5引上げ後に想定される影響や必要な対応等について議論

○ 訓練のタイムスケジュール

- 13：00～ 開会、訓練運営方法の説明、各機関準備
- 13：15～ 訓練開始（レベル3までの対応整理等）
- 13：30～ フェーズ①（レベル4引上げ）
- 14：45～ フェーズ②（レベル5引上げ）
- 15：35～ 講評
- 15：45～ 訓練終了、閉会

付録① 4-2.有識者・専門家・関係機関への支援依頼



現実的な訓練シナリオを検討するための専門的視点からの助言や、訓練時の助言等をいただくために関係機関に支援を依頼した。

協力機関		依頼・調整内容
1	内閣府（防災担当）	- 訓練企画にあたっての助言（訓練想定や訓練形式等） - 資料作成支援 - オブザーバーとして参加（適宜助言や解説等の支援）
2	（NPO法人） 火山防災推進機構	- 訓練企画にあたっての助言 - 資料作成支援 - 事務局側として参加（適宜助言や運営等の支援）
3	協議会第8号議員※ のうち参加希望機関	必要に応じて訓練実施中の助言等

※浅間山火山防災協議会 第8号議員

群馬県高崎市、群馬県安中市、内閣府政策統括官（防災担当）、気象庁（浅間山火山防災連絡事務所）、国土交通省関東地方整備局（利根川水系砂防事務所・長野国道事務所・高崎河川国道事務所）、林野庁関東森林管理局（吾妻森林管理署）、中部森林管理局（東信森林管理署）、環境省信越自然環境事務所（上信越高原国立公園管理事務所）、国土地理院関東地方測量部、長野県警察本部（高速道路交通警察隊）、小諸警察署、佐久警察署、軽井沢警察署、群馬県警察本部（警備部・高速道路交通警察隊）、長野原警察署、高崎北警察署、安中警察署、(株)西武・プリンスホテルズワールドワイド鬼押出し園、しなの鉄道(株)、(株)白糸ハイランドウェイ、東日本高速道路(株)（関東支社長野管理事務所）、(株)ステップアウト、東日本旅客鉄道(株)（長野支社・高崎支社）、浅間山ジオパーク推進協議会、佐久広域連合事務局

出典：浅間山火山防災協議会設置要綱（令和5年12月27日最終改正）別表3

付録① 4-3.訓練内容（形式）の具体化



グループ討議が円滑に進むよう、進行補助役の配置や記入シートを用いた意見の見える化等の工夫を施した。

■ 図上演習の実施イメージ

全体司会（進行管理）



レベル4 発表時の
〇〇の対応は？

① 状況付与

場面ごとに
繰り返し実施

状況付与（質問）に対して、グループ内で
議論（役割等は設けずに自由に議論）

議論の誘導・助言役として、防災担当職員を配置

対面会場や
オンライン参加
機関の
参加者



進行補助役

（必要に応じて配置。対面参加
会場では直接各班を巡回、オン
ライン参加機関へは適宜確認や
問い合わせ等に回答）

② 状況付与および質問事項に対する対応を検討

③ 記入シートに付箋を貼りだし、班内の議論内容を共有

④ 検討結果を整理・報告

⑤ 参加者で振り返り・意見交換により
課題等を共有

付与情報

実施内容

関係機関

依頼内容

付与情報に対応した実施内容や関係機関、依頼
内容を付箋に記入し、記入シート（付与情報を張
り付けた模造紙）に貼付して議論内容を整理

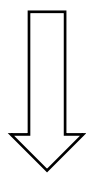
付録① 4-4.訓練想定（シナリオ、状況付与）の具体化



議論が円滑に進むよう、質問形式で状況付与を設定。対応の確認等の基礎を中心として火山対策への理解を深める形で進める。

○ 状況付与の一例

確認
整理



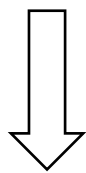
意見
交換

【フェーズ①：噴火警戒レベル3から、レベル4への引上げ時】

付与1：火山活動（噴火警戒レベル）に応じて想定される影響の確認
→ハザードマップや避難計画等に基づき、記入シート上で整理

付与2：噴火警戒レベル4引上げ時に収集、伝達すべき情報や対象を検討
→付与1で整理した事項を踏まえ、実際に対応を行う際に必要となる情報やその収集手段、住民等への呼びかけ等について議論

確認
整理



意見
交換

【フェーズ②：噴火警戒レベル4から、噴火を受けたレベル5への引上げ時】

付与3：今後想定される活動の推移や必要となる対応を確認
→噴火シナリオ等に基づき、記入シート上で整理

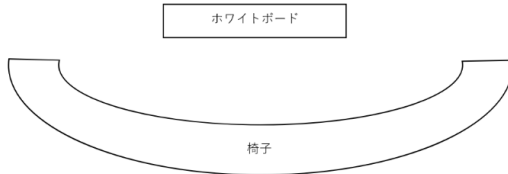
付与4：活動の推移を踏まえ、想定される対応等について検討
→付与3で整理した事項を踏まえ、事前に準備・確認すべき事項や対応のタイミング、手段等の具体や課題等について議論

付録① 4-5.訓練当日資料・備品の準備

状況付与は、配布のほかスクリーンに常時表示

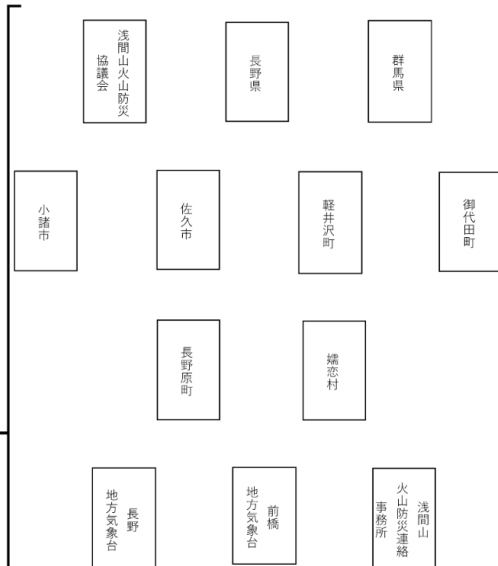


ワーク
シ
ョ
ッ
プ



進行
マイク

見
学
者



報道

入口

避難計画等の参考資料は、各班で準備



模造紙に対応や連携先等を書き出し、議論した内容を整理

<図上演習用の配布資料>

- ① 記入シート（付箋紙貼付用の模造紙）
- ② 文房具類（太い黒色ペン、付箋紙等）
- ③ 参加者用の班名表示やビブス
- ④ 参考資料（付与情報）

<オンライン参加機関との情報共有>

- ① 演習状況の配信
- ② 情報共有（付与情報等の共有）

事務局は時間管理や記録を適宜実施。進行補助役は演習中にテーブルを巡回して、助言等を実施。

付録① 4-6.進行管理者・進行補助者向け資料の準備

ポイント：チェックリスト形式で想定対応を整理し、進行補助や講評時に活用（実施例）

活動項目	いつ	手段	ねらい	チェック
状況把握	レベル4 発表	各種媒体	情報収集手段を理解しているか （气象台、防災システム、監視カメラ等）	
対策本部設置	レベル4 発表	－	対策本部設置基準を理解しているか	
避難誘導	レベル4 発表	各種手段	対象者等への避難誘導（情報伝達、手法、人員や資機材の手配等）をどのように行うか	

ポイント：議論の進行補助のための状況付与を準備（必要に応じて利用）

○ 噴火警戒レベル4 引上げ時に住民から問合せがあった場合にどのように対応しますか？
（質問のねらい）

・避難が必要になる対象者や、避難手段・経路等を理解しているか。

（ヒント）

- ・噴火警戒レベル4に引上げられた段階では、まだ避難指示等は発令されないこと
- ・今後の状況（融雪型火山泥流のおそれ等）により避難が必要となる可能性があること
- ・避難方法として、地区外の避難場所に自家用車等で避難を行うか、
地区内の最寄り避難場所に一時集合し、バス等により避難を行うか、等

ポイント：進行補助者は、可能な範囲で事前に課題を把握し、課題の解決に向けた意見が出るような進行ができるとより良い訓練となる。

付録① 5. 訓練当日の流れ

演習概要説明	訓練のタイムスケジュールや、 図上演習の概要、ルール、流れ等を説明
図上演習 (訓練開始～ フェーズ①)	・噴火警戒レベル 3 までの対応状況、レベル 4 に引上げ直前、引上げ時の対応を各班で演習 ・各班の検討結果概要について、合同会議※をイメージしながら報告し、意見交換
図上演習 (フェーズ②)	・2 日後に噴火警戒レベル 4 から 5 に引上げされた時の対応を各班で演習 ・各班の検討結果概要について、合同会議をイメージしながら報告し、意見交換
講 評	各班から演習全体を通した気づきの共有、 オブザーバー及び進行補助者からの所見の 報告や、講評を実施
アンケート記入	アンケート回答



図上演習の様子



各班報告の様子



講評の様子

※国、関係地方公共団体、火山専門家等の関係者で構成される会議

付録① 参考：演習の流れ

噴火警戒レベル3（入山規制）の状況で、1月31日13時30分に、気象庁から「噴火警報（居住地域）」が発表され、噴火警戒レベルが4（高齢者等避難）に上げられた。その2日後に、14時45分に噴火警戒レベル5（避難）が発表された。これらの各状況における各機関の対応と今後の活動拡大を見据えた対応等について議論を深める。

○ 訓練開始～フェーズ1：噴火警戒レベル3からレベル4への引上げ

- 
- STEP①：ハザードマップ等を基に、レベル3時点での警戒が必要な範囲等を図上で確認
避難計画等をもとに、レベル3で実施する防災対応を確認し、現時点でどのような対応が実施されている状況かを各班内で共有
- STEP②：レベル4への引上げが迫る状況で、防災対応に必要な情報、収集手段、課題を議論
- STEP③：レベル4引上げを受けて、住民等に提供すべき情報、伝達手段、対象者の避難誘導方法、必要な関係機関との連携を議論
- STEP④：結果を取りまとめて報告、参加者で意見交換

○ フェーズ2：噴火警戒レベル5への引上げ

- 
- STEP⑤：レベル5への引上げを受けて、必要な対応を議論し、記入シートに整理
- STEP⑥：住民等への避難誘導等に必要となる事項を議論
- STEP⑦：結果を取りまとめ報告、参加者で意見交換

○ 各班の発表・振り返り

- ・各班の代表者から取りまとめの発表を行い、情報収集、情報伝達、避難誘導等対応を議論した観点から気づき等を共有、他の参加機関を含めた意見交換
- ・講評者からの講評

付録① 6. 訓練の振り返り



ポイント 訓練参加者と進行補助者のそれぞれの立場からの成果・課題を共有する機会として、訓練当日に振り返りを行い、アンケートを実施した。

<講評の視点>

- ・ 専門的な視点から、演習結果の評価や今後の改善事項を共有する。
- ・ 演習を通じた特徴的な成果や今後の課題について共有する。
- ・ 訓練成果・課題について、今後の取組（計画反映等）に活用することの重要性を共有する。

<訓練参加者を対象としたアンケート項目>

問1：所属、氏名、参加形態（対面・オンライン）、火山災害対応経験の有無

問2：図上演習の実施時間と難易度

（1）フェーズ①（レベル4）（2）フェーズ②（レベル5）（3）振り返り の各項目
時 間（3 択）ちょうどよい・短い・長い + 時間に関する自由記述
難易度（3 択）ちょうどよい・簡単・難しい + 難易度に関する自由記述

問3：図上演習の各フェーズで対応した内容について、現在の広域避難計画等でもっと強化すべきと感じた点（フェーズ①・②の項目ごとに自由記述で回答）

問4：図上演習や振り返りを通じて課題・問題と考えられる点等（自由記述で回答）

問5：図上演習の実施方法について

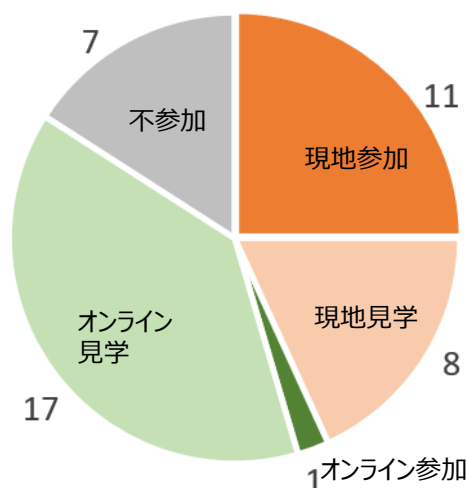
効果的・少し効果的・他の手法がよい、から選択
演習の問題点、改善点、感想等を自由記述で回答

問6：演習に参加した感想や今後の火山防災対策に向けての意見等（自由記述で回答）

付録① 参考：アンケート結果（一部抜粋）

【問 1 .訓練への参加方法について】

(n = 44)



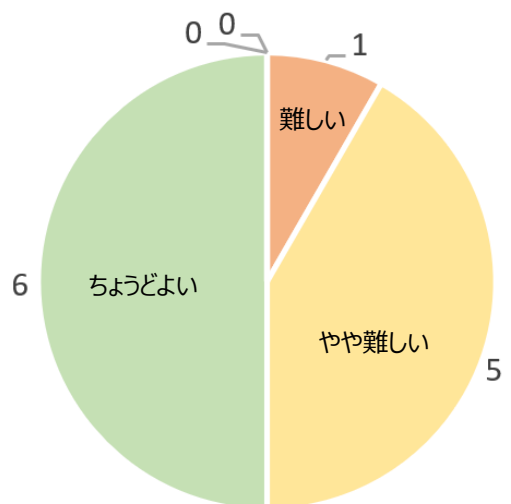
訓練参加(12)

見学(25)

■ 現地で現地で訓練へ参加	■ 現地で訓練を見学
■ オンラインで訓練へ参加	■ オンラインで訓練を見学
■ 不参加	

【問 2 ～ 3 .訓練の難易度と主な意見について】

(訓練参加のみ回答、n = 12)



■ 難しかった ■ やや難しかった
■ ちょうどよかった ■ やや簡単だった
■ 簡単だった

【主な意見】

● 難しい

- ・状況付与の間隔が短い。

● やや難しい

- ・作業が忙しく、総括の時間が足りない。
- ・他機関との意見聴取等ができなかった。
- ・条件によって被害想定が変わるのが難しい。
- ・初めての訓練であり対応判断が困難だった。

● ちょうどよい

- ・訓練時間が適切。
- ・想定について検討する時間が十分にあった。
- ・各機関の流れを確認することができた。
- ・状況付与が適度で対応内容を確認できた。
- ・適切なボリューム感であった。
- ・事前学習会もあり、適度な訓練だった。
- ・付与情報の対応イメージを持てた。

付録②：雌阿寒岳における

図上演習の企画・運営の具体例

付録② 0. 雌阿寒岳の概要

ポイント 本資料は、令和4年度に釧路市が主催した火山防災訓練※を対象に、
企画ガイドの流れに合わせて、企画や準備等の内容をまとめたものです。
※内閣府のモデル事業として、釧路市と共同で訓練の企画等を実施

■ 雌阿寒岳の概要

雌阿寒岳（海拔 1,499m）は、8つの小さな火山から構成される成層火山群の総称で、今なお噴気活動が続ける火山である。

現在、火山活動は、おおむね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、今後の火山活動の推移を見守る必要がある。

出典：釧路市HP「雌阿寒岳火山防災計画」

（https://www.city.kushiro.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/003/712/meakkankeikaku.pdf）を一部加工



写真：気象庁HP「雌阿寒岳」

（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/sapporo/105_Meakan/105_index.html）

■ 雌阿寒岳火山防災協議会 コアグループ

- 道：十勝総合振興局（帯広建設管理部、保健環境部）、釧路総合振興局（釧路建設管理部、保健環境部、地域創生部）
- 市町村：釧路市◎、弟子屈町、鶴居村、白糠町、美幌町、津別町、足寄町
- 気象台：札幌管区気象台、釧路地方気象台
- 北海道開発局：釧路開発建設部、帯広開発建設部
- 自衛隊：陸上自衛隊第5旅団
- 警察：北海道警察釧路方面本部、北海道警察釧路方面（釧路警察署、本別警察署）
- 消防：とかち広域消防局、釧路市消防本部
- 火山専門家：北海道大学大学院、北海道大学広域複合災害研究センター
- その他の機関：国土地理院北海道地方測量部、十勝東部森林管理署、根釧西部森林管理署、釧路自然環境事務所、北海道総合通信局

出典：気象庁HP「雌阿寒岳の火山防災協議会等」（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/sapporo/105_Meakan/105_bousai.html）



出典：ハザードマップ：釧路市HP「雌阿寒岳火山防災ガイドブック（P8,P9）」
（https://www.city.kushiro.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/012/643/meakannagaido.pdf）

付録② 3-1.事務局体制・訓練対象者、訓練項目の設定



訓練への参加や企画の経験等も踏まえ、関係職員を対象とした、比較的少人数の訓練規模を設定した。

○事務局体制：防災担当職員

- 防災担当の職員を中心に企画等を実施、気象台等にも協力を依頼

○訓練対象者：関係職員

- 想定される防災対応の確認、マニュアル等の検証を行うため、関係職員を対象者として設定

○訓練会場：阿寒湖温泉地区（阿寒湖まりむ館）

- 災害対策地域本部阿寒湖温泉班の活動拠点であり、演習スペースが確保できる場所として選定

○準備期間：3ヶ月間程度

○訓練時間：3時間程度

- 参加者が集中して演習等に取り組めるよう、講評・振り返りを含めて全体で3時間程度の時間を確保

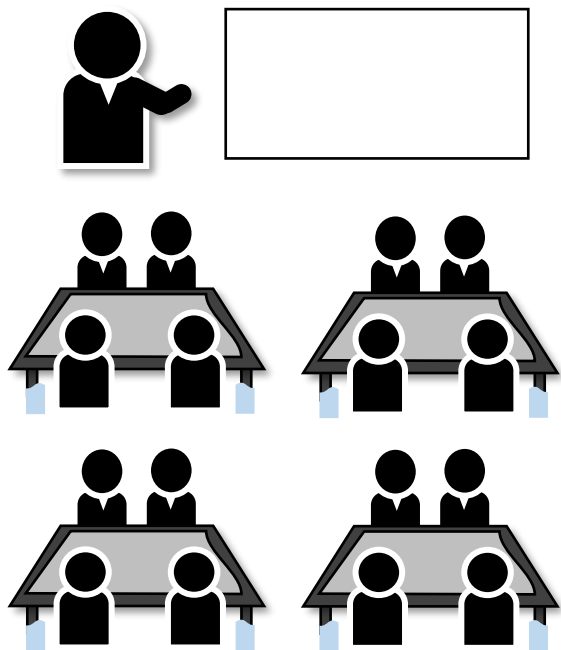
付録② 3-2.目的に応じた訓練形式の選択



避難計画等を学ぶ「勉強会」と、議論を通じて理解を深め、実際の対応や課題を確認・検討する、「図上演習（防災ワークショップ）」の2部構成とした。

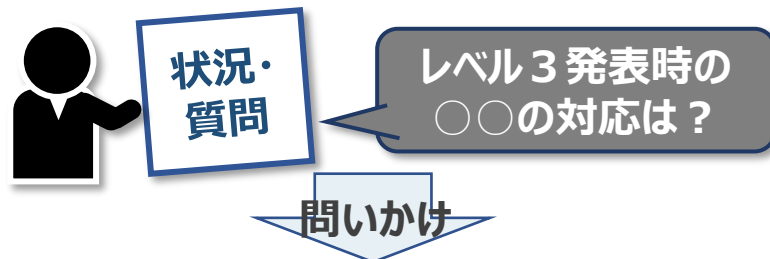
■ 実施イメージ

勉強会



図上演習（防災ワークショップ）

全体司会（進行管理）



参加者（グループごとに議論）



付録② 3-3.訓練想定（場面）の設定



火山活動の活発化から噴火警戒レベル3に至る過程において、避難計画等に基づく対応等を確認できるように場面を設定した。

項目	想定の例
火山活動状況	・ 前提条件として、数日前から火山活動が活発化し、噴火警戒レベルが2に引き上げられている状況を想定 ・ ごく小さな噴火が発生し、噴火警戒レベルが3に引き上げられ、その後も噴火が続いている状況を想定
気象	・ 晴れ
季節	・ 登山者や観光客等が多いと想定される9月末に設定
時間	・ 実際の訓練開始の時間に合わせる
被害状況	・ 特段の設定はなし
時間進行	・ 噴火警戒レベルの引き上げ時と、その後の対応の2つの場面
その他	・ 対象地域の住民等の避難が必要になる状況として、降灰後の土石流発生の可能性を考慮 ・ 複雑な設定等は避け、演習の中で適宜想定を広げていくこととした

付録② 4-1.訓練骨子の整理（1/2）

○ 訓練の目的・ねらい

- 釧路市職員を対象として、火口周辺警報（噴火警戒レベル3（入山規制））発表後に想定される影響や必要となる防災対応への理解を深め、必要な手順等を確認すること

○ 訓練の実施日時・会場

- 令和5年2月9日(木) 13時～16時 阿寒湖まりむ館

○ 訓練参加機関

- 主 催：釧路市防災会議
- 実施機関：釧路市阿寒町行政センター
- 協力機関：内閣府（防災担当）、釧路地方気象台、釧路警察署、
釧路市消防本部
- 当日参加機関：釧路市西消防署阿寒湖温泉支署、釧路市消防団阿寒第2分団

○ 訓練想定

- 雌阿寒岳において火山活動が活発化し、噴火警戒レベルが2（火口周辺規制）に引き上げられた。
- ごく小さな噴火が発生し、噴火警戒レベルが3（入山規制）に引き上げられた。

付録② 4-1.訓練骨子の整理（2/2）

○ 訓練実施方法

- 勉強会（内閣府（防災担当）、釧路地方気象台）
- 図上演習

○ 場面想定

- 2つのフェーズに区分
 - フェーズ①：噴火警戒レベル2から3への引上げ時の対応
 - ➡ 阿寒湖温泉地区における初動対応等について議論
 - フェーズ②：火山活動の拡大等を考慮した対応
 - ➡ 初動対応後に想定される影響や必要な対応等について議論

○ 訓練のタイムスケジュール

- 13：00～ 開会
- 13：05～ 噴火時等の対応に関する勉強会
 - ・噴火警戒レベルについて
 - ・雌阿寒岳における防災対応
- 13：50～ 図上演習概要説明
- 14：05～ 図上演習・振り返り・講評
- 16：05～ 閉会

付録② 4-2.有識者・専門家・関係機関への支援依頼



現実的な訓練シナリオを検討するための専門的視点からの助言や、訓練時の助言等をいただくために関係機関に支援を依頼した。

協力機関		依頼・調整内容
1	内閣府（防災担当）	- 訓練企画にあたっての助言（訓練想定や訓練形式等） - 資料作成支援 - オブザーバーとして参加（適宜助言や解説等の支援）
2	釧路地方気象台	- 訓練シナリオの検討にあたっての助言（想定される火山現象や噴火警報等の発表タイミング等） - 訓練資料の作成支援（噴火警報、火山活動解説資料等） - 勉強会への協力（噴火警戒レベルの解説等） - オブザーバーとして参加（適宜助言や解説等の支援）
3	釧路警察署	訓練にオブザーバーとして参加（適宜助言や解説等の支援）
4	釧路市消防本部	訓練にオブザーバーとして参加（適宜助言や解説等の支援）

その他、訓練参加者として、以下の機関が参加した。

- ・ 釧路市西消防署阿寒湖温泉支署
- ・ 釧路市消防団阿寒第2分団

※事前に火山防災エキスパート制度を利用した行政機関等職員向け勉強会を実施

付録② 4-3.訓練内容（形式）の具体化



グループ討議が円滑に進むよう、進行補助役の配置や記入シートを用いた意見の見える化等の工夫を施した。

■ 図上演習の実施イメージ

全体司会（進行管理）



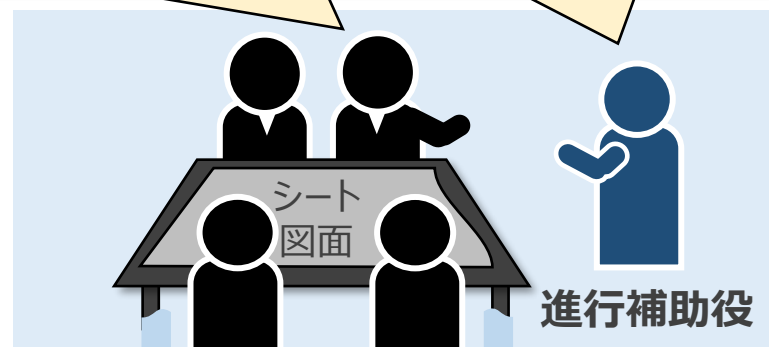
レベル3発表時の
〇〇の対応は？

① 状況付与

場面ごとに
繰り返し実施

状況付与（質問）に対して、グループ内で
議論（役割等は設けずに自由に議論）

議論の誘導・助言役として、防災担当職員を配置



② 状況付与および質問事項に対する対応を検討

③ 記入シートに付箋を貼りつけ



意見や気づきを付箋に記入し、地図や模造紙に張り出すことで、意見を出しやすい雰囲気醸成や、議論の取りまとめに活用

④ 検討結果を整理・報告、
⑤ 参加者で振り返り・意見交換

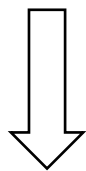
付録② 4-4.訓練想定（シナリオ、状況付与）の具体化



議論が円滑に進むよう、質問形式で状況付与を設定。対応の確認等の基礎から、徐々に検討を深めるような形で状況付与を進める。

○ 状況付与の一例

確認
整理

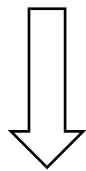


意見
交換

【フェーズ①：噴火警戒レベル2から、レベル3への引上げ時】

- 付与1：火山活動（噴火警戒レベル）に応じて想定される影響の確認
→ハザードマップや避難計画等に基づき、地図や記入シート上で整理
- 付与2：噴火警戒レベル3引上げ時に収集、伝達すべき情報や対象を検討
→付与1で整理した事項を踏まえ、実際に対応を行う際に必要となる情報やその収集手段、住民等への呼びかけ等について議論

確認
整理



意見
交換

【フェーズ②：火山活動の拡大】

- 付与3：今後想定される活動の推移や必要となる対応を確認
→噴火シナリオ等に基づき、地図や記入シート上で整理
- 付与4：活動の推移を踏まえ、想定される対応等について検討
→付与3で整理した事項を踏まえ、事前に準備・確認すべき事項や対応のタイミング、手段等の具体や課題等について議論

付録② 4-5.訓練当日資料・備品の準備

状況付与等は、紙配布に加え、スクリーンにも表示

スクリーン

講師

講師

振り返り時には、記入シート等を
ホワイトボードに貼り出して共有

B 班

A 班

進行

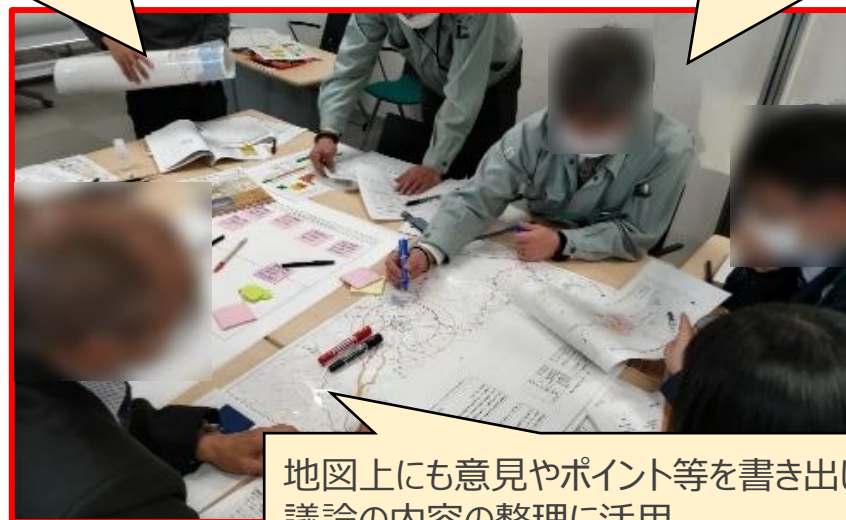
事務局・進行補助・記録

オブザーバー

演習中は、テーブルを巡回して、助言等を実施
時間管理や、写真・映像による記録を適宜実施

避難計画等の参考資料は、
各テーブルに複数配布

名札等も事前に配布しておく
と、受付等がスムーズに行える



地図上にも意見やポイント等を書き出し、
議論の内容の整理に活用

<図上演習用の配布資料>

- ① 記入シート（付箋紙貼付用の模造紙）
- ② 作業用白地図
- ③ 文房具類（ペン、付箋紙等）
- ④ 参加者用の名札やビブス等
- ⑤ 参考資料
（避難計画、ハザードマップ、マニュアル等）

付録② 4-6.進行管理者・進行補助者向け資料の準備

ポイント：チェックリスト形式で想定対応を整理し、進行補助や講評時に活用

活動項目	いつ	手段	ねらい	チェック
状況把握	レベル3 発表	各種媒体	情報収集手段を理解しているか (気象台、防災システム、監視カメラ等)	
警戒本部設置	レベル3発 表	ー	警戒本部設置基準を理解しているか	
登山者の把握	レベル3発 表	各種手段	登山者の把握をどのように行うか (関係機関、周辺施設、登山届け、監視カメラ等)	

ポイント：議論の進行補助のための状況付与を準備（必要に応じて利用）

○ 噴火警戒レベル3 引上げ時に住民から問合せがあった場合にどのように対応しますか？
(質問のねらい)

・避難が必要になる時期や、避難手段・経路等を理解しているか。

(ヒント)

- ・噴火警戒レベル3に引上げられた段階では、まだ避難指示等は発令されないこと
- ・今後の状況（降灰後の土石流のおそれ等）により避難が必要となる可能性があること
- ・避難方法として、地区外の避難場所に自家用車等で避難を行うか、
地区内の最寄り避難場所に一時集合し、バス等により避難を行うか、等

付録② 5. 訓練当日の流れ

勉強会	釧路地方気象台から雌阿寒岳における噴火警戒レベルの解説、内閣府（防災担当）から火山噴火時の防災対応に関する解説
演習概要説明	訓練のタイムスケジュールや、図上演習の概要、ルール、流れ等を説明
図上演習	初動対応とその後の対応の2つの場面（フェーズ）を想定、フェーズごとに各班から結果を報告し、意見交換を実施
講 評	各班から演習全体を通した気づきの共有、オブザーバー及び進行補助者からの所見の報告や講評を実施
アンケート記入	アンケートの実施



勉強会の様子



図上演習の様子



講評の様子

付録② 参考：演習の流れ

9月30日14時に、ごく小さな噴火が発生し、噴火警戒レベルが3（入山規制）に引き上げられたことを受け、市（阿寒町行政センター）として初動対応と（今後の）活動拡大を見据えた対応に分けて議論を深める。

○ フェーズ1：噴火警戒レベル2からレベル3への引き上げ時

- 
- STEP①：ハザードマップ等を基に、警戒が必要な範囲等を図上で確認
避難計画・マニュアル等をもとに、必要な防災対応を記入シートに書き出し、
ホワイトボードに掲出
- STEP②：防災対応に必要な情報、収集手段、課題を議論
- STEP③：住民等に提供すべき情報、伝達手段、必要な関係機関との連携を議論
- STEP④：結果を取りまとめて報告、参加者で意見交換

○ フェーズ2：火山活動の拡大

- STEP⑤：今後の活動の推移により想定される事態を記入シートに書き出し、ホワイトボードに掲出
- STEP⑥：阿寒湖温泉地区からの避難が必要となる場面、避難誘導等に必要な事項を議論
- STEP⑦：結果を取りまとめ報告、参加者で意見交換

○ 各班の発表・振り返り

- ・各班の代表者から取りまとめの発表を行い、情報収集、情報伝達、避難誘導の観点から気づき等を共有
- ・各班のテーブル周りに集合して、各班の取りまとめに対する意見交換
- ・勉強会の講師、進行補助者からの講評

付録② 6. 訓練の振り返り

ポイント



訓練参加者と進行補助者のそれぞれの立場からの成果・課題を共有する機会として、訓練当日に振り返りを行い、アンケートを実施した。

<講評の視点>

- ・ 専門的な視点から、演習結果の評価や今後の改善事項を共有する。
- ・ 演習を通じた特徴的な成果や今後の課題について共有する。
- ・ 訓練成果・課題について、今後の取組（計画反映等）に活用することの重要性を共有する。

<訓練参加者を対象としたアンケート項目>

問1：所属・氏名・災害対応経験の有無

問2：図上演習の実施時間と難易度

（1）勉強会、（2）フェーズ1、（3）フェーズ2、（4）振り返りの各項目
時 間（選択式） ちょうどよい・短い・長い
難易度（選択式） ちょうどよい・簡単・難しい

問3：図上演習の①情報収集、②情報共有、③避難誘導について、現在の火山防災計画や初動マニュアルでもっと強化すべきと感じた点（①～③の項目ごとに自由記述で回答）

問4：図上演習や振り返りを通じて課題・問題と考えられる点等（自由記述で回答）

問5：図上演習の実施方法について

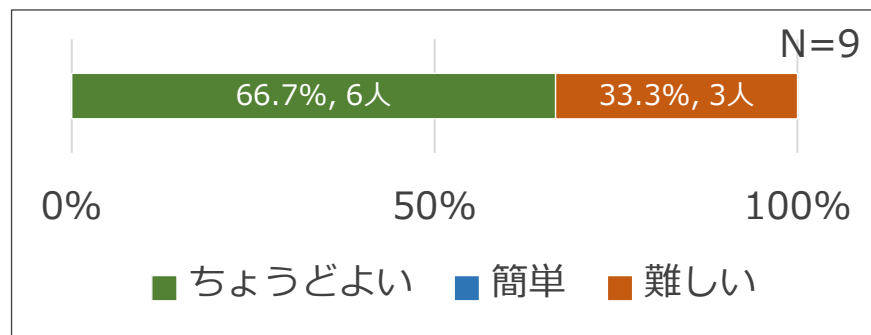
効果的・少しは効果的・他の手法がよい、から選択
演習の問題点、改善点、感想等を自由記述で回答

問6：演習に参加した感想や今後の火山防災対策に向けての意見等（自由記述で回答）

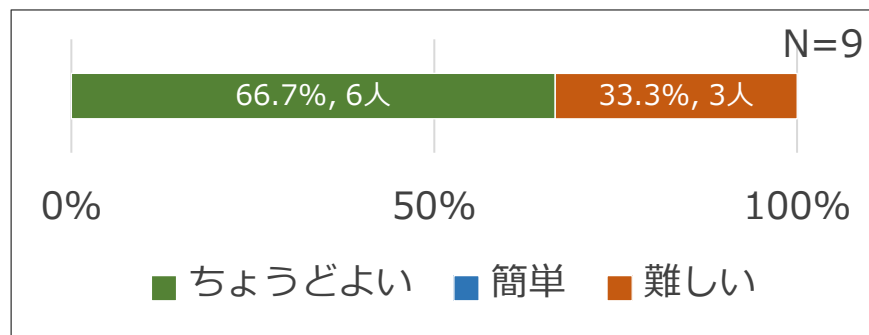
付録② 参考：アンケート結果（一部抜粋）

○ 問 2：図上演習の難易度

(2)フェーズ1の難易度



(3)フェーズ2の難易度



○ 問 3：現在の火山防災計画や初動マニュアルでもっと強化すべきと感じた点

- ・「項目」はある程度整理されているが「誰が」「誰に」という点の具体化が必要と感じた。
（①情報収集、②情報共有、③避難誘導）
- ・どこにどの様な内容の話を聞くか、リスト化しておくが良い。（①情報収集）
- ・バス等等で何人誘導できるか現段階の情報が欲しい。（③避難誘導）

○ 問 4：図上演習や振り返りを通じて課題・問題と考えられる点等

- ・マニュアルでは把握しきれない項目が多いと感じた。関係機関との連携も重要である。
- ・実際の有事の時の通報のタイミング等、詳細についてもっと協議した方が良いと思う。
- ・実際に避難してきた人を確認し、取り残されていないかの確認をどの様な方法で行うか検討が必要と感じた。

付録③：雌阿寒岳における

実働訓練の企画・運営の具体例

付録③ 3-1.事務局体制・訓練対象者、訓練項目の設定



住民の避難訓練を中心に、災害対策地域本部の設置や、関係機関及び避難促進施設等との通信訓練を実施した。

○事務局体制：防災担当職員

- 防災担当の職員を中心に企画等を実施、気象台等にも協力を依頼

○訓練対象者：阿寒湖温泉地区住民、釧路市職員

- 避難行動（避難方法、避難先等）の確認を通じて、火山防災意識の醸成を図るため、阿寒湖温泉地区の住民を訓練対象者に設定 ※職員向けの手順確認等も併せて実施

○訓練項目

住民向け	①住民の避難	本資料は住民向けの 避難訓練を中心に解説	職員向け	⑤災害対策地域本部の設置
	②避難者の輸送			⑥住民や関係機関への情報伝達
	③避難所の開設・受入			⑦避難促進施設への連絡
	④火山防災エキスパート講話			⑧避難行動要支援者への連絡

○訓練会場：阿寒湖温泉地区内の5箇所

- 住民の集合場所として地区内の**5箇所**を設定
集合した住民等は、職員向け訓練や講話の会場である阿寒湖まりむ館へ輸送を行うこととした
※実際は、地区内の広域避難場所へ集合した後、地区外の避難所への輸送を行う

○準備期間：3ヶ月間程度

○訓練時間：2時間程度

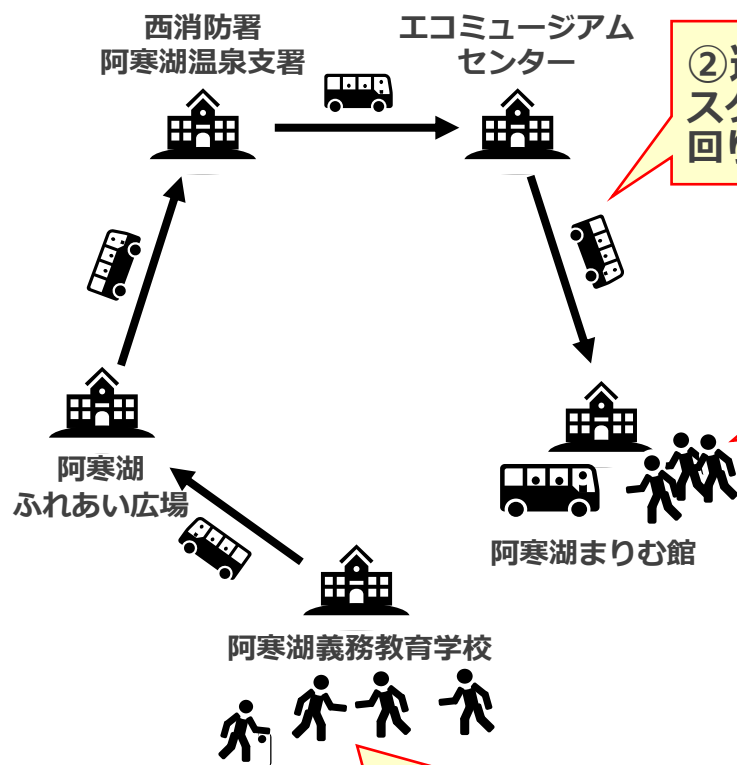
- 住民の訓練参加を促すため、住民を対象とした訓練は2時間程度に設定

付録③ 3-2.目的に応じた訓練形式の選択



避難場所や避難の流れ、避難所の受入れ等の手順を体験・確認するための実働訓練を中心に、職員向けの訓練と防災講話を実施した。

○訓練の実施イメージ



②避難者の輸送

スクールバスで5箇所の集合場所を回り、避難者を収容しながら移動

③避難所の開設・受入

5箇所目の阿寒湖まわりむ館に到着後、避難所の受付を実施

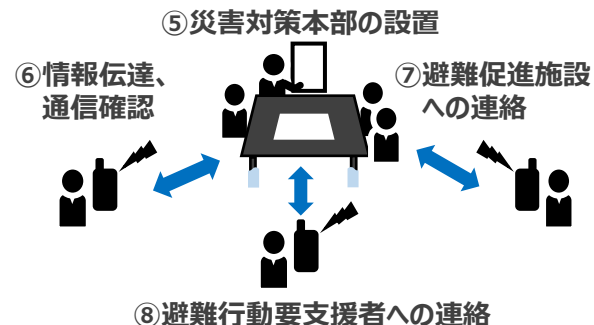
④火山防災エキスパート講話

阿寒湖まわりむ館内で住民向け講話を実施

①住民の避難

住民は、地区内の5箇所の集合場所まで各自避難

阿寒湖まわりむ館では、並行して職員向けの訓練を実施



付録③ 3-3.訓練想定（場面）の設定

ポイント



噴火警戒レベル3の段階でも、降灰後の土石流により地域外への避難が必要となる可能性や避難場所を知ってもらうための場面を設定した。

項目	概要
火山活動状況	・ 9月下旬に小規模な噴火が発生、噴火警報（火口周辺）が発表され、噴火警戒レベルが3に引き上げられている状況を想定 ・ この噴火に伴い、降灰が堆積したことから、国土交通省による緊急調査が実施され、土砂災害緊急情報が発表
気象	・ 降雨の継続（土石流の発生の可能性が高まる）
季節	・ 実際の訓練実施日時に合わせる
時間	・ 実際の訓練開始日時に合わせる
被害状況	・ 特段の設定はなし
時間進行	・ 実時間で進行する（場面変化なし）
その他	・ 噴火警戒レベルの引き上げではなく、降灰後の土石流の可能性が高まったことを受けて、避難指示を発令 ・ 住民の負担や訓練時間を考慮して、集合場所に集まった後は、実際に避難する地域外の避難先ではなく、阿寒湖まりむ館に輸送（実際の避難先は、訓練通知や訓練内で住民に説明）

付録③ 4-1.訓練骨子の整理（1/2）

○ 訓練の目的・ねらい

- 阿寒湖温泉地区の住民に対して、防災意識の向上を図るとともに、避難訓練を通じて、避難が必要となる場面や避難場所等を理解してもらうこと
- 釧路市職員を対象として、災害対策本部設置や避難所開設等の必要な手順等を確認すること

○ 訓練の実施日時・会場

- 令和4年11月14日(月)11時～（2時間程度）※職員向け訓練は9時～
- 阿寒湖温泉地区内の広域避難場所（住民の集合場所）
- 阿寒湖まりむ館（職員向けの訓練会場、住民の輸送先、講話会場）

○ 訓練参加機関

- 主 催：釧路市防災会議
- 実施機関：釧路市阿寒町行政センター
- 協力機関：釧路地方気象台、釧路市西消防署阿寒湖温泉支署、釧路市社会福祉協議会阿寒支所、釧路赤十字奉仕団阿寒分団、釧路市家庭防災推進員西地域協議会阿寒第2地区阿寒湖温泉部会、釧路市消防団阿寒第2分団、阿寒湖温泉旅館組合、避難促進施設（16施設）、阿寒湖温泉地区町内会（6町内会）

付録③ 4-1.訓練骨子の整理（2/2）

○ 訓練想定

- 小規模な噴火が発生したことから、噴火警戒レベルが3（入山規制）に上げられるとともに、火山灰の堆積が確認されたため、土砂災害緊急情報が発表された。
- 降雨が継続し、阿寒湖温泉地区に降雨後の土石流の発生の可能性が高まったことを受け、対象地域の検討を経て避難指示が発令された。

○ 訓練実施方法

- 実働訓練

○ 場面想定

- 降雨後の土石流の可能性 → 職員の参集や災害対策地域本部の設置等
- 避難指示の発令 → 住民の避難や輸送等

○ 訓練のタイムスケジュール

- 9：00～ 訓練開始（降雨後の土石流の可能性）
 - ・職員の参集
 - ・災害対策地域本部設置
 - ・避難指示対象地域の検討
 - ・避難所開設、避難促進施設への連絡、避難行動要支援者への連絡
- 11：00～ 住民の訓練開始（避難指示の発令）
 - ・避難指示の発令、住民の集合場所への避難
 - ・集合場所から避難場所への輸送
 - ・住民向けの講話

付録③ 4-2.有識者・専門家・関係機関への支援依頼



現実的な訓練シナリオを検討するための専門的視点からの助言や、訓練時の対応手順を確認するために関係機関に参加を依頼した。

協力機関		依頼・調整内容
1	内閣府（防災担当）	・ 訓練企画にあたっての助言（訓練想定や訓練形式等） ・ オブザーバーとして参加（適宜助言や総括等の支援）
2	釧路地方気象台	・ 訓練シナリオの検討にあたっての助言（想定される火山現象や降雨型土石流の想定等） ・ コントローラーとして参加（状況付与役）

※訓練後に火山防災エキスパート制度を利用した住民向けの講話を実施

付録③ 4-3.訓練内容（形式）の具体化



住民が参加する避難訓練を中心に、一連の防災対応の流れや手順の確認等が行えるよう、訓練項目を具体的に設定した。

土石流の可能性の高まり

**行政職員等を
対象とした
実働訓練**

- 職員の参集、災害対策地域本部の設置
- 被害範囲の推定、被害状況等の把握、危険箇所のパトロール
- 関係機関との連絡体制の確認、衛星電話等の操作確認
- 避難行動要支援者施設への連絡手段の確認
- 避難促進施設への情報伝達

避難指示の発令

**住民を対象とした
避難訓練**

- サイレンによる地域内への避難指示の通知
- 住民の集合場所への避難
- 集合場所から避難所への輸送
（今回の訓練では地域内の避難所への輸送）
- 避難所での住民の受入れ

訓練後

講話

- 住民への火山防災への理解促進のための講話
（雌阿寒岳の特徴、降灰後の土石流の危険性、火山防災マップの説明等）

付録③ 4-4.訓練想定（シナリオ、状況付与）の具体化



火山防災計画の記載内容をもとに、各訓練項目の実施に係る所要時間や関係機関の参加状況を勘案して実施時間・実施内容を設定した。

項目	雌阿寒岳火山防災計画の記載内容	訓練シナリオへの反映
避難誘導者	災害対策本部設置市町村の本部員、 消防署員、消防団員 及び警察官その他指示権者の指示を受けた者	消防阿寒湖温泉支署、消防団阿寒第2分団による避難誘導（車両の先導、避難経路確認）を実施
避難方法	・ 自家用車等による自力避難	訓練では扱わない （訓練周知の中で、避難の手段や先等を併せて周知）
	・ 緊急一時避難場所に集合し、市町村が確保した車両等で避難	実際の避難の流れを確認してもらうため、地区内の避難場所に集合した後、車両による避難を実施
避難の単位	・ 昼間は、 学校単位、職場単位、家庭単位 で避難 ・ 夜間は、家庭単位で避難	11時からの避難を想定し、各自避難を促すための対応（各市町）

参考：雌阿寒岳火山防災計画（令和5年7月、P7-4）

付録③ 4-5.訓練当日資料・備品の準備

ポイント  災害時と同様の資機材を前提として、訓練項目ごとに必要となる資機材を設置した。

住民の避難・避難者の輸送

ビブスを着用した職員が待機し、避難者を誘導



訓練であることを明示する訓練旗を掲示

避難所の開設・受入

避難所が開設中であることを掲示



避難支援用のスクールバスを準備

避難者名簿や筆記用具等のほか、体調チェック表やマスク等を準備し、感染症予防対策を実施



付録③ 4-7.事前説明会の開催・住民への参加周知の実施



住民に対し、訓練の実施連絡及び火山防災対策に関する知識を醸成することを目的とした開催案内を作成し、地区内の住民に配布した。

皆さまの安全・安心のため

雌阿寒岳の降灰に伴う泥流を想定

防災総合訓練に参加をお願いします

実施日時

11/14 (月)
午前 **11:00~12:45**
＜訓練開始＞ ＜終了予定＞

実施場所 阿寒湖まわりむ館 ほか

天候や、新型コロナウイルス感染症の状況等により、内容の変更や中止となる場合があります。

11時にサイレンを
鳴らします。※10時台に通知放送を予定
ご理解とご協力をお願いします。

当日の訓練内容

11:00～
①【集合】11時のサイレンで、
最寄りの集合場所に各自集合。

- 動きやすく、温かい服装で参加をお願いします。
- 集合場所付近には、市の職員が待機しています。

当日の集合場所	集合先
1 エコミュージアムセンター広場 (阿寒町阿寒湖温泉1-1-1)	広場内
2 阿寒湖まわりむ館前広場 (阿寒町阿寒湖温泉2-6-20)	2階側の広場内
3 西消防署阿寒湖温泉支署訓練 広場 (阿寒町阿寒湖温泉3-8-1)	駐車場付近
4 阿寒湖ふれあい広場 (阿寒町阿寒湖温泉5-5)	広場内
5 阿寒湖義務教育学校グラウンド (阿寒町阿寒湖温泉6-4-1)	駐車場付近

主催：釧路市防災会議 実施機関：釧路市阿寒町行政センター（お問合せ先：電話 0154-66-2121）



気象庁「日本気象協会」(第4版) Web掲載版 (雌阿寒岳) 1



(平成30年度に実施した際の訓練の様子)

11:10頃～
②【移動】避難のバス・ワゴン車
に乗り「阿寒湖まわりむ館」に移動。



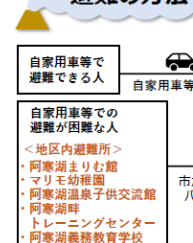
今回の訓練では、
「まわりむ館」へ移動し
ます。
※実際の避難先は
裏面を参照

11:45頃～
③【講話】火山防災の専門家
から、お話を伺います。

- 火山災害の教訓
- 火山噴火時の心掛け など
- ＜講師＞
- ・松井 家廣 氏
(内閣府火山防災エキスパート)

実際の

避難の方法



今回の訓練では、下記1～6の地区外避難所への移動は行いません。

阿寒湖温泉地区に避難指示が発令された場合

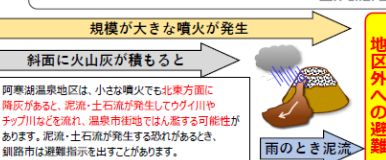
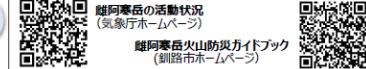
- ①自家用車等で地区外避難所へ避難
- ②地区内避難所に一時集合し、地区外避難所へ避難

お住まいの地区	地区外避難所
1 阿寒湖温泉1丁目	保健・福祉サービス複合施設、 橋南センター
2 同 2丁目	阿寒町公民館
3 同 3丁目	阿寒町スポーツセンター
4 同 4丁目	阿寒小学校
5 同 5丁目	阿寒中学校
6 同 6丁目	阿寒中学校

雌阿寒岳について



出典：雌阿寒岳火山防災ガイドブック



雌阿寒岳のポンチネリ山頂には、大きな火口があります。手前の底が浅い火口は、
約700年前の噴火でできた旧火口です。その中に水をとれた青沼火口、
左手の旧火口の縁には20世紀の小噴火でできた火口があります。
遠方の深い火口は、約400年前の噴火でできた赤沼火口です。（写真上）

1990年代以降の雌阿寒岳の噴火
1996年 小噴火。北方約50kmまで微量の降灰があった。
1998年 小噴火。
2006年 小噴火。ポンチネリの北西斜面に
ごく小規模な融雪を伴う泥流が発生。
2008年 ごく小規模な噴火。



(火山泥流の例：有珠山2000年。気象庁資料)

釧路市地域防災計画に基づき、関係機関の協力のもと、雌阿寒岳の噴火で堆積した火山灰に伴う火山泥流を想定した
防災総合訓練を実施します。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

主 催：釧路市防災会議
実施機関：釧路市阿寒町行政センター
協力機関：釧路市地方気象台、釧路市西消防署阿寒湖温泉支署、釧路市社会福祉協議会阿寒支所、
釧路市赤十字奉仕団阿寒分団、釧路市家庭防災推進員西地地区協議会阿寒第2地区阿寒湖温泉部会、
釧路市消防団阿寒第2分団、阿寒湖温泉旅館組合、避難促進施設（16施設）、阿寒湖温泉地区町内会（6町内会）

今回の訓練では対象外
とした地区外避難所へ
の移動について、住民
が災害時に適切に対応
できるよう、実際の避難
所の場所や避難方法を
記載した。

火山への関心や防災対
策の必要性を認識して
もらうため、雌阿寒岳の
成り立ちや影響が想定
される火山現象等を記
載した。

付録③ 5. 訓練当日の流れ

訓練開始	サイレンによる避難訓練開始の合図
▼	
避難訓練	・地区内 5 箇所の集合場所に避難 ・スクールバスで 5 箇所の集合場所を回り、避難者を収容しながら移動 ・5 箇所目の阿寒湖まりむ館に到着後、避難所受付
▼	
講 話	火山防災エキスパートから、火山災害の教訓や火山噴火時の心掛け等の講話
▼	
講評・総括	本部長、総括からの意見、報告を実施
▼	
アンケート記入	アンケートの実施



スクールバスによる避難の様子



避難所受付の様子



講話の様子

付録③ 6. 訓練の振り返り



ポイント 訓練の成果・課題を確認することを目的として、住民をはじめとする訓練参加者を対象にアンケートを実施した。

<訓練参加者を対象としたアンケート項目>

問1：お住まいの地区・性別・火山防災訓練の参加経験・雌阿寒岳の噴火経験

問2：防災総合訓練について

- (1)実施時間 (選択式) 長い方が良い・ちょうどよい・短い方が良い
- (2)集合場所 (選択式) 知っている場所だった・知らない場所だった・その他
- (3)サイレン音 (選択式) よく聞こえた・ややききとりにくい・ききとりにくい

問3：火山防災の専門家による講話について

- (1)話の内容 (選択式) わかりやすかった・やや難しかった・難しかった
- (2)話の時間 (選択式) もう少し長くてよい・ちょうどよい・もう少し短くてよい

問4：雌阿寒岳の噴火が差し迫ったときの対応

- (1)避難の方法 (選択式) 自家用車での直接避難・避難場所に集合しバスで域外避難・わからない
- (2)いつ避難するか
(選択式) 避難指示で避難開始・避難指示前でも必要に応じて自主避難・わからない

問5：火山防災について、あなたが理解できたこと（当てはまるものすべて選択）

雌阿寒岳が火山であること・雌阿寒岳の噴火で避難の可能性があること・
地区外に避難をする可能性があること・泥流で避難路が使えない可能性があること・
地区外に避難をする場合の避難場所・その他

問6：火山防災への意識（当てはまるものすべて選択）

雌阿寒岳火山防災ガイドブックを持っている・噴火警戒レベルと防災対応の関係を理解している・
避難指示の用語の意味を理解している・高齢者等避難の用語の意味を理解している

問7：本日参加した訓練（当てはまるものすべて選択）

問8：防災総合訓練への参加のきっかけ、訓練に参加しての感想等（自由回答）

問9：気づき・ノウハウ（自由回答）

付録③ 参考：アンケート結果（一部抜粋）

【職員の回答】

＜訓練全般について＞

- ・避難者がどこまで輸送されたか、他の班がどのような状況になっているか、避難所受付や他の班にも防災無線を渡す等すると良い。今回は各々役割が与えられたが、災害時は役割以外のこともやらなければならないため、情報共有は必要と感じた。

＜防災意識の醸成について＞

- ・大雨や地震災害とは違い、火山災害に対する防災意識を地域住民に知ってもらうことは難しいと感じた。しかし、万が一という最大級の災害に備え、地域住民の関心が少なくても、防災訓練を実施することが住民の意識につながる。

＜住民の避難訓練について＞

- ・消防阿寒温泉支署の避難者から、放送が聞こえないとの声が寄せられた。
- ・一次避難場所に職員2人の配置は、障がい者や高齢者が来た際の誘導等で場を離れると1人になるので次々と来たら対応しきれない。

＜避難所の開設・避難者の受入れについて＞

- ・避難者の受入れがスムーズに実施できるよう、スペースの有効活用や人員配備、各自検温の実施といった避難者を含めた役割分担を整理すると良い。
- 特に、体調不良者への対応についてはマニュアル等があればよい。

【住民の回答】

- ・高齢者がいるので避難が難しいかもしれない。歩くのが遅いから、長く歩けない。
- ・新聞の折り込みチラシ（開催案内）を見て参加した。
- ・初めての訓練参加により、防災意識を高めることが出来たのでとても良い機会となった。